



選考結果発表の後、選考委員と一緒に一般のママやパパたちが参加して「ママたちが本当に欲しいと思える商品、サービスを考えよう」というワークショップを開催

「ウェルカムベビープロジェクト」(2月21日開催)。各企業からのプレゼント選考結果が発表された。交流会でマイクを持つこまちぶらす代表の森祐美子さん

地域プラザでの「ミシンの会」を覗かせていただいたが、プロの男性デザイナーがボランティア参加し、デザイナーのアドバイスをしていらした。もちろん、ママだけではなく、パパも参加大歓迎だ。ゆるやかで自然体なのがとてもいい。

私の世代は、まっごうから男性社会に対して反発するという「北風」方式だったが、時代は変わった。和やかな風を送り込むことで、さりげなく変えていこうという「太陽」方式。いいなあ。女性解放運動の先駆けであった平塚らいてうも「元始、女性は太陽であった」と宣言したではないか。

船本さんから、まま力の会を進めるにあたって、とても影響を受けた人と紹介されたのが森祐美子さん。NPO法人「こまちぶらす」の代表である。

こまちぶらすの活動

JR戸塚駅で、森さんはまさしく、お日様のような笑顔で迎えてくれた。案内されたところは住宅街にあるビルの2階。清々しい木の壁と明るい色合いのカーテンに、まず癒される。ここにあるのは、小麦、卵、乳製品不使用のヘルシーなランチを提供する「こまちカフェ」、レンタルできるイベントスペースとキッチン、手作り小物レンタル棚ショップなど。すべてが清潔で、とても居心地が良い。

ちょうどランチタイムとあって、カフェはお母さんと小さな子どもたちでいっぱい。要予約どころか、時間で入れ替えするほどの人気だ。離乳食持ち込みもオーケー。どの顔も、おいしそうに、楽しそうにほころんでいる。

じつは森さん、こんな笑顔と無縁な時期があった。育児休職をとり、二人の子どもを産み育てていた頃だ。大企業に勤め、海外に関わる仕事でばりばり働いていたのに、いきなり、家庭と子どもしかなくなっていた。周りを見回しても知った人がいない。いかに地域と無縁で暮らしてきたか、その時、気がついたのだ。

孤独を噛みしめていた時、住まいのある戸塚区の保健師から、市が子育て支援拠点を作るので意見交換会に出ないかと誘われた。行ってみると、自分と同年代の人から高齢者まで、いろんな世代の人がいた。かわるがわる子どもを抱っこしてくれて、すっかり気持ちが楽になった。そしてわかったのだ。子育てには地域が必要だと。

昔はいつもご近所さんがいた。でも核家族、都会集中になり、さらには個人情報保護の壁によって、親も子も、地域とのつながりが希薄になってしまった。だったらそれを取り戻そうではないかと、森さんは友人の子育て世代を誘って動き出した。何年もかけて築いたネットワークをもとに2012年、

「戸塚で「こまちぶらす」を立ち上げた。拠点のハードは、ヨコハマ市民まち普請事業に応募して得た資金と、仲間のお父さんたちの日曜大工、退職した技術者などの協力できくり上げた。ソフトは地域の商店街、NPOなどと連携したワークショップ。子育て世代だけでなく、全世代、健常者も障害者も、多様な人々が、ここに来れば前向きな交流と情報を得ることができる。

戸塚だけではない。各地域に、いろんな人たちが、こうしたコミュニケーションカフェを立ち上げられるようにと、団体として『ひろばカフェ』をつくろう」という本を刊行した。子育てを軸にした、まったく新しい地域ムーブメントが、この横浜から動き始めているのである。

最新の、すてきなプロジェクトをご紹介しておこう。戸塚区を皮切りに、これから全国に拡がりそうな「ウェルカムベビープロジェクト」。赤ちゃんが生まれたばかりという家族が、ホームページで申し込むと、地域の企業、商店などから、ここならではの品やサービスを詰めたボックスを、ヤマト運輸が届けてくれる。おそろく5月末あたりから。

誕生と同時に地域の祝福を受けた子どもは、大人になっても、あたたかいふるさとを決して忘れないだろう。